

秘境・平家の里へ、 能と狂言が行く。

●文化振興基金事業●

日本一づくり運動として『平家伝説の里づくり』が進行中の八代郡・泉村。この度、その核となる「五家荘平家の里」がオープン。五家荘に伝わる平家落人縁の品々を展示する平家伝説館をはじめ、能舞台や旧民家など、その歴史や生活様式を再現しました。

この能舞台のこけら落としとして、泉村縁の能『清経』や狂言が披露。県立劇場への寄付をもとに設立された文化振興基金初の事業として注目を浴びました。これは、県内の伝統芸能の完全上演や埋もれている才能ある人々に発表の場を提供しようというものです。

そこで今回は、この『能・狂言』の上演を中心に、熊本の文化振興についてママさん特派員がレポートしました。



石原 緑はすごくきれいだし、時折、鶯の音が聞こえてきたり。自然に囲まれた、まさに『秘境』だったですね。
只隈 熊本市内からだとかなり距離がありますが、それだけに感激もひとしおでした。

石原 それに、地元でとれた山菜や山女魚の手作りの弁当まで頂いて…。泉村の人々の思いが伝わってくるような素朴で真心のこもった落成式でしたね。

只隈 本当に、行ってよかったです。私の舞台は初めてだったんですよ。もう、感激でいっぱい。他の人たちもみんな楽しそう。中には、お茶を飲んだり子どもをあやしたり、『ピクニック』って感じの人たちもいましたね。本物を気軽に楽しめる雰囲気って、すごくいい。



石原 松美さん

石原 そうそう、演劇やコンサートなどは、チケット買って盛装して、劇場で見るイメージが定着しているから。同じ内容でも環境が変わると、こんなにも文化を身近に感じることが出来るんですね。

只隈 それにあの日は霧が出て、舞台効果としては抜群だったんじゃない



只隈 恭子さん

かしら。真新しい能舞台の緑の屋根や朱塗りの柱が時折鮮やかに現われてはスーッと消えていく感じ…。それに『清経』が異様な雰囲気まで迫ってくるようで、ドキドキして見ていました。
文化振興基金事業では能楽の次は、清和村の文楽、三加和町の山森神楽など、向こう一年ぐらいの予定が立ててありますね。でも、熊本に住んでいてもそのほとんどが知らないものばかり…。
石原 たくさんいい素材があっても知られていないことが多いんでしょうね。私が子どもの頃は、近所の神社でも神楽が舞われていたんです。寒かったので体に毛布をぐるぐる巻きつけたり、怖いお面をつけた人が現われると毛布で目をさっと隠したり…。今思えばすごくいい体験だったんですね。

只隈 私はそういう経験が余りないのでとても羨ましい。だから、せめて自分の子どもには、そういう伝統芸能に触れさせておきたい。そのためには、身近なところをもっと意識して見る必要があるんじゃないかしら。

石原 でも、気がついたら神社の神楽もいつの間にかなくなってしまう。他の町にない素晴らしい文化なのに

。寂しかったですね。だからそれぞれの地域に昔から伝わるものを、もっと意識して、見て、聞いていかなければいけないと思う。

只隈 今回の能楽などは、伝統を守り続けて来た人たちの努力の賜だと思っし、同時に真価が試される機会でもあると思うんですね。頑張ってる人たちにとっては励みになるんじゃないでしょうか。劇場が自ら応援してくれるのですから。

石原 そういう意味でも、今は文化に対して小さな芽が生まれたばかり。その芽をつぶさないで少しずつ育てて行くことが大切なのではないかと思えます。

地方に住む私たちにとって、今回のような『出前劇場』の活動は嬉しいかぎり。是非、続けていってもらいたいですね。

◎文化振興基金事業 今年度のスケジュール

- 清和村 ● 文楽人形浄瑠璃
義太夫の録音から復元を開始。
- 三加和町 ● 山森神楽 (8月4日) 山立劇場 (二六〇年間少年達によって伝えられた神楽。)
- 天草音楽祭 (1月7日) 山立劇場
自分達で作詞作曲した音楽を天草の音楽グループが熱唱。
- 波野村 ● 中江神楽 (1月27日) 山立劇場
三十三座を完全復元。世界初の24時間連続公演。(衛星放送によって全部を生中継予定。)